教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	5	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	本文全体の構造を踏まえ、作者の主張をとらえることができる。 本文全体の展開をつかみ、自然描写や人物の言動などから心情をとらえることができる。 自分の考えを正確に伝えることができる。 古典文法の用言を体系的に整理したうえで、助動詞・助詞を理解し、古文を正確に読解する力をみにつける。 漢文の基礎を身につけ、書き下し文を正しくかけるようにする。
目標を達成するための留意点	授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身に着ける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。 家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける
使用教科書	『国語３』（光村図書）　　『新しい書写一・二・三年』（東京書籍）
使用副教材	『中学実力練成テキスト　国語３年』（文理）　　『常用漢字クリア』（尚文出版） 『はじめての評論文２０選』（明治書院）　　『新国語便覧』（第一学習社） 『やさしく詳しい古典文法』（尚文出版） 『明説漢文』（尚文出版） 『力をつける古文』（数研出版）
評価基準	知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点に基づき、小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	原語知識　・常用漢字・同音異字・同音異義語の習得 ・抽象概念語句に馴れる 説明文・論説文 ・文章構成をとらえ，意味段落ごとの要約ができる。 ・要約した内容から，要旨をまとめることができる。 詩歌・文学的文章 ・登場人物の人物像をとらえることができる。 ・自然描写や場面展開に気付き、その意味を考えることができる。 ・登場人物相互の関係をとらえ，登場人物の心情をとらえる。 ・文章を読んだ感想や思いを，文章で正確に伝えることができる。 ・中世から中古の説話文・物語文・和歌の読解 ・文法の習得・活用して文章を読解する。 ・古今異義語の理解 ・音読・暗証 〇説話文などを導入教材として、古文の文章を本格的に読解していく。その上で、古今異義語の理解を深め、語句の知識を増やす。 また、古文の基礎となるのは音読・暗唱であるという認識を持ち、リズム感をもち文章を読解するためにも音読・暗唱を心がける。

	漢文の入門 ・語順・訓読方法・書き下し文 〇故事成語を中心に、漢文の文章に慣れる。そのための基礎となる訓読方法・語順についての基礎を学ぶ。

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年	国語	詩・小説	「世界はうつくしいと」「握手」等		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		説明文	「作られた『物語』を超えて」等				■		■	■																										
		小説	「高瀬舟」等							■	■	■																								
		実用的文章	実用的文章を読もう										■																							
		小説	「故郷」等														■	■	■																	
		論説	「人工知能と未来」等																■	■			■	■												
		詩・文学的文章	「初恋」等																					■	■	■										
		論説	「誰かの代わりに」等																										■	■	■					
		詩・文学的文章	「わたしを束ねないで」等																												■	■				
		随筆	「境目」など																													■	■			
		言語知識	漢字・文法など		■	■	■		■	■	■	■	■				■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■	■		■
		書写	書写																								■								■	

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年	古典	古文	古今和歌集		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			夏草				■		■																											
			古典の伝統							■	■	■		■																						
			日本文学の流れ		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■	■		■
		古典・近代文学の名作	伊勢物語														■	■	■																	
			土佐日記																	■			■	■	■	■										
			源氏物語																								■			■	■	■					
			更科日記																														■	■		■
		文法	文語文法の復習		■	■	■		■	■	■	■		■			■	■	■	■		■	■	■	■		■		■	■	■	■	■	■		■

教科	科目	単位数	対象学年
社会	公民	3	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って，社会に対する関心を高め，諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い，国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように，基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し，課題を解決する能力を一層培うため，各分野において，適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して，言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的，体験的な学習の充実を図る。その際，情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第 14 条及び第 15 条の規定に基づき，政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	・新しい社会　歴史（東京書籍） ・新しい社会　公民　（東京書籍）
使用副教材	・つながる歴史（浜島書店） ・基礎をきずく歴史③　東京書籍版（浜島書店） ・新しい公民（浜島書店） ・基礎をきずく公民　東京書籍版（浜島書店）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度　それぞれの項目に関して，授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	【 歴　史 】 第７章　現代の日本と世界 １節　戦後日本の発展と国際社会　　２節　新たな時代の日本と世界 【 公　民 】 第１章　現代社会と私たちの生活 １節　現代社会の特色と私たち　　２節　私たちの生活と文化 ３節　現代社会の見方や考え方 第２章　個人の尊重と日本国憲法 １節　人権と日本国憲法　　２節　人権と共生社会　　３節　これからの人権保障 第３章　現代の民主政治と社会 １節　現代の民主政治　　２節　国の政治の仕組み　　３節　地方自治と私たち 第４章　私たちの暮らしと経済 １節　消費生活と市場経済　　２節　生産と労働　　３節　価格の働きと金融 ４節　政府の役割と国民の福祉　　５節　これからの経済と社会 第５章　地球社会と私たち １節　国際社会の仕組み　　２節　さまざまな国際問題 ３節　これからの地球社会と日本 終　章　より良い社会を目指して

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3	社会	歴史	第7章　1節		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査								2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			第7章　2節				■		■																											
		公民	第1章　1節						■	■																										
			第1章　2節							■																										
			第1章　3節								■	■																								
			第2章　1節									■		■																						
			第2章　2節											■			■																			
			第2章　3節															■	■																	
			第3章　1節																■	■																
			第3章　2節																	■		■	■													
			第3章　3節																			■	■													
			第4章　1節																				■	■												
			第4章　2節																					■		■										
			第4章　3節																							■			■							
			第4章　4節																										■	■						
			第4章　5節																											■	■					
			第5章　1節																												■	■				
			第5章　2節																													■	■			
			第5章　3節																																	■
			終幕																																	■

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①＋数学Ⅰ	3(1＋2)	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。年度初めは、高校数学の十分な理解のために、中学校までの総復習を行う。 ・学力推移調査で偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	・高等学校数学の基礎となる数式計算・処理の技能の習熟を徹底すること。 ・論理力，数学的な表現力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学3(数研出版)，数学Ⅰ(数研出版)
副教材	体系数学Ⅰ代数編，体系問題集Ⅰ代数編(数研出版) 体系数学Ⅱ代数編，体系数学問題集Ⅱ代数編（数研出版） サクシード 数学Ⅰ＋A(数研出版)
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	〔数学①〕 中学校の総復習 教科書・副教材の問題を中心に総復習を行う。ときに、発展問題も扱い、高校数学につながるような授業を行う。 ［数学Ⅰ］ 第1章　数と式 ・数と式の基本的な計算を学び，見通しをもって式を扱えるようにする。 ・数を実数まで拡張し，数の体系について理解を深める。また、1 次不等式の解法を学び，解の意味について理解を深める。 ・論理的な思考力を伸ばし，それらを命題などの考察に生かす。背理法を用いた証明について学ぶ。 第2章　集合と命題 ・数学での「集合」の考え方について理解し，式で表現できるようにする。 ・「命題」「条件」とは何かを理解し，真偽について論理的に考えることができるようにする。 ・背理法について理解し，活用できるようにする。 第3章　2 次関数 ・関数の概念を定着させ，2 次関数についてグラフを用いて理解を深める。 ・2次関数の値の変化を考察し，関数の最大値・最小値を求められるようにする。 ・2次方程式，2次不等式の解の意味を2次関数のグラフを用いて理解し，2次不等式の解法を学ぶ。

	第4章　図形と計量 ・直角三角形における三角比を学び，それを鈍角まで拡張する。 ・三角比を用いて，三角形の辺と角の間に成り立つ性質（正弦定理・余弦定理）を学ぶ。 ・いろいろな図形について，辺，角，面積，体積などの計量や面積比・体積比について学ぶ。 第5章　データの分析 ・データを度数分布表やヒストグラムに整理し，代表値を求めることができるようにする。 ・データの散らばり具合を表す四分位範囲や箱ひげ図について理解する。 ・データの散らばり具合を表す数値「分散」「標準偏差」について理解し，その値を求めることができるようにする。 ・2つの変量の間の関係について，数値や図，表などを使って分析することができるようにする。 ・集団について仮説を立てたとき，その仮説が正しいかどうかを判断する方法の1つである「仮説検定」の考え方を理解する。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学①	中学校の総復習 発展問題					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
数学Ⅰ	数と式																																				
	集合と命題																																				
	2次関数																																				
	図形と計量																																				
	データの分析																																				

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学Ａ	2	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	・下記学習内容を理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。特に，図形の計量問題や証明問題を通して，論理的な考え方や表現力をさらに伸ばす。 ・学力推移テストで偏差値 55 以上が取れる習熟度を目指す。
目標達成のための留意点	素朴な直観，観察を通して気づいたこと，考えたことを数学的に表現させる体験を通して論理力・表現力を育成していくこと。つまり，既有知識を大切にし，決して形式的・表面的な指導にならないように注意すること。
教科書	数学Ａ(数研出版)
副教材	サクシード 数学Ⅰ＋Ａ(数研出版)
評価方法	定期考査，小テスト，提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また，課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し，総合的に評価する。
授業内容	第1章　場合の数と確率 ・図表などを用いて集合についての基本的な事項を学ぶ。 ・場合の数を正確に数える方法として，和・積の法則や順列・組合せなどを理解し，不確定な事象を数学的に扱う確率の考えを学ぶ。 第2章　図形の性質 ・三角形や円などの基本的な性質や定理について学び，図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。 第3章　数学と人間の活動 ・整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。特に，ユークリッドの互除法，1次不定方程式の解法，n進法について学ぶ。

2．指導計画

		4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
科目	項　目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
数学A	場合の数					1学期中間試験					1学期期末試験										2学期中間試験					2学期期末試験									学年末試験		
	確率																																			
	図形の性質																																			
	数学と人間の活動																																			
	既習分野の復習																																			

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科①	2	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め，基本事項をよく理解し，物理的なものの見方や考え方を身に付ける。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「考える物理基礎」（啓林館）
使用副教材	「センサー総合物理」（啓林館）
評価基準	・定期試験　・課題の提出　・実験レポート　・授業への意欲等により総合的に判断する。
学習内容	物体の運動とエネルギー ・物体の運動 ・力と運動 ・仕事とエネルギー

2．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
運動とエネルギー	物体の運動			1学期中間考査		1学期期末考査					2学期中間考査		2学期期末考査				学年末考査	
	力と運動																	
	仕事とエネルギー																	

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科②	2	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	１．化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 ２．原子の構造と電子配置を理解する。 ３．物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく，能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「化学基礎」（東京書籍）
使用副教材	「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社） 「フォトサイエンス　化学図録」（数研出版）
評価基準	＊主体的に学習に取り組む態度 ＊思考・判断・表現 ＊知識・技能 　　の３つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	序　編　科学と人間生活 第１編　　１章：物質の探求 　　２章：原子の構造と元素の周期表 　　３章：化学結合 第２編；物質の変化 　　１章：物質量と化学反応式 　　２章：酸と塩基

２．指導計画

		4月	5月		6月		7月	8月	9月	10月		11月		12月	1月	2月		3月
化学と人間生活	化学とは何か	■		1		1					2		2					
	物質の成分と構成元素		■	学		学					学		学				学	
物質の構成	原子の構造と元素の周期表			期	■	期					期		期				年	
	化学結合			中	■	期	■				中		期				末	
物質の変化	物質量と化学反応式			間		末			■	■	間	■	末	■			考	
	酸と塩基			考		考					考		考		■	■	査	■
	酸化還元反応			査		査					査		査					

教科	科目	授業時数	対象学年
音楽	音楽	1	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	楽曲の特徴をとらえ色々な言語で表現しよう。／楽器の特徴を生かした楽曲を鑑賞しよう。／音楽表現を工夫し、アルト・リコーダーを演奏しよう。／豊かな響きと表現で合唱をしよう。／色々な芸能・舞台芸術を鑑賞しよう。／日常生活・社会と音楽について認識しよう。
目標を達成するための留意点	◆合唱コンクールを通して、協調性、演奏会のプロセス、鑑賞マナーを身に付けさせる。 ◆鑑賞教室を通して、鑑賞のマナーや社会性を身に付けさせる。 ◆日本音楽実技講習会を通して、自国の文化に触れ、尊重する姿勢を身に付けさせる。
使用教科書	中学音楽　音楽のおくりもの２・３下／中学器楽　音楽のおくりもの（教育出版）
使用副教材	音楽ノート <NEW MUSIC NOTE>　（教育芸術社）
評価基準	◆＜各学期の評価＞実技１００点、ノート・提出物１００点、定期テスト１００点の３００点満点を３で割り、１００点満点の評点とする。忘れ物・態度不良等は評点より減点する。教務の規定により１０段階、学年末は５段階評定に置き換える。　◆＜観点別評価＞各項目を次のとおりとする。Ⅰ…実技試験・その他実技の評価（**個別の知識・技能**）　Ⅱ…プリント・課題等の提出物の評価（**思考・判断・表現力**）　Ⅲ…定期テストの評価・授業態度（**個別の知識・技能、思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度**）
学習内容	◆歌唱教材：花／荒城の月／帰れソレントへ／椰子の実／（合唱コンクールの曲）／Top of the World／旅立ちの日に　◆鑑賞教材：歌劇「アイーダ」／交響詩「ブルタバ」／組曲「展覧会の絵」／歌舞伎「勧進帳」／文楽「義経千本桜」　◆器楽教材：「風のとおり道」／名旋律集 ◆音楽著作権　※今年度は芸術鑑賞のための事前学習（ミュージカル）を実施

２．指導計画

			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年	音楽	花（歌唱）	●				1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		荒城の月（歌唱）		●																																		
		交響詩「ブルタバ」（鑑賞）			●																																	
		組曲「展覧会の絵」（鑑賞）			●																																	
		椰子の実（歌唱）				●																																
		帰れソレントへ（歌唱）						●	●																													
		「風のとおり道」（器楽）								●																												
		名旋律集（器楽）									●		●																									
		歌劇「アイーダ」（鑑賞）																●	●																			
		鑑賞教室事前学習																		●																		
		合唱コンクール　準備～練習																			●	●	●	●	●	●												
		合唱コンクール振り返り																										●										
		歌舞伎「勧進帳」」（鑑賞）																												●								
		日本音楽実技講習会（器楽）																													●							
		文楽「義経千本桜」」（鑑賞）																														●						
		Top of the World（歌唱）（器楽）																															●	●				
		音楽著作権																																		●		

教科	科目	授業時数	対象学年
美術	美術	1	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
目標を達成するための留意点	＊ 学 習 上 の 注 意 ・ 助 言 ・自分の作品を大切にし、ねばり強く集中し、試行錯誤し、制作に取り組む。 ・提出物の提出期限は必ずまもる。 ・準備や後片付けをきちんと行う。（忘れ物をしない） ・計画的に作業し、予定どおりに作品を完成できるように努力する。 ・作品を早く仕上げることよりも、最後まで試行錯誤しながら工夫し、困難を乗り越え創り上げることを大事にしたい。 ・鑑賞の学習では、作者の心情やその背景にあるもの、表現の意図と工夫について考える。 ・作品について良さや美しさ、感じたことを友達とじっくり話し合う。 ・年３回の定期テストもしっかり準備して臨む。
使用教科書	美術２・３（開隆堂）
使用副教材	プリント教材
評価基準	[知識・技能] ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し，創造的に表している。→ 作品・定期テストなどで評価します。 [思考・判断・表現] 造形的なよさや美しさ，表現の意図と工夫，美術の働きなどについて考えるとともに，主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。→ 授業プリント・ワークシート・定期テストなどで評価します。 [主体的に学習に取り組む態度] 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。→ 課題への取り組み方・発表・学習態度・作品・準備物・提出物などで評価します。
学習内容	多様化する人間表現，人柄や性格をとらえて，祈りの造形、仏像の美， 自己をみつめて，合成されるイメージ，イメージの広がり（シュールレアリスム）， アイデアを生かして版画の世界，現代美術の開拓者（ピカソの世界）， キュビスム風静物デッサン，色と形のハーモニー（コラージュ）

２．指導計画

学年	科目	単元	項目	4月 上	4月 中	4月 下	5月 上	5月 中	5月 下	6月 上	6月 中	6月 下	7月 上	7月 中	7月 下	8月 上	8月 中	8月 下	9月 上	9月 中	9月 下	10月 上	10月 中	10月 下	11月 上	11月 中	11月 下	12月 上	12月 中	12月 下	1月 上	1月 中	1月 下	2月 上	2月 中	2月 下	3月 上	3月 中	3月 下
3年	美術	多様化する人間表現	様々な肖像を鑑賞し、人間の表現の多様性を知る。		■	■	■	1学期中間考査					1学期期末考査									2学期中間考査						2学期期末考査									学年末考査		
		人柄や性格をとらえて	人物の観察をもとに、その人物の性格や人柄など内面的なイメージを大事にした肖像を制作する。						■																														
		空間表現の不思議								■																													
		自己をみつめて	自分のこれまでを振り返り、自分を意識した想像の世界をスクラッチの技法で描く。									■		■					■																				
		合成されるイメージ イメージの広がり アイデアを生かして	ダリやマグリットなどシュールレアリスムの作品やだまし絵などを鑑賞し表現に結び付けていく。																	■																			
																					■																		
																						■			■	■													
		版画の世界	古今東西の版画を知り、その多様な表現を味わう。																							■	■												
		現代美術の開拓者	ピカソの人物・芸術について知り、現代の美術にどう影響を与えたかを理解する。																									■			■	■							
		キュビスム風静物デッサン	ピカソ芸術の原点であるキュビスムに的を絞り、実際キュビスム風の絵を描く。																															■	■				
		色と形のハーモニー	身のまわりのものでコラージュをし、抽象表現的な造形美を追及する。																																	■		■	

教科	科目	授業時数	対象学年
保健体育	体育	3	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保持増進のための実践力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
目標を達成するための留意点	・いろいろな運動の基礎・基本を学ぶ。 ・練習やゲームの方法を工夫して、友だちと協力して互いに教え合う。 ・健康と環境の関わりや感染症の予防について知り、自己の生活に生かす。
使用教科書	最新 中学保健体育（大修館）、現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育 ノート（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 ・運動の技能が優れている。 ・運動の基礎基本を確実に身に付け、実際に向上することができる。 ・運動の方法や健康・安全についての知識を学び生かすことができる。 ・体育的知識（トレーニング理論、スポーツ理論）を習得し生かせる。 【思考力，判断力，表現力等】 ・自己の評価を見つけ、解決の方法を工夫できる。 ・目標を決め、計画を立て、工夫して取り組む。 ・自分勝手でなく、仲間と協力して楽しい活動を進める。 ・安全に留意し、危険を避けることができる。 【学びに向かう力，人間性等】 ・進んで運動を実践し喜びを味わうことができる。 ・体力づくりに関心をもち、意欲的に運動する。 ・集中して頑張るとともに、最後まで力強くやり抜く。 ・授業の決まりや集団行動のマナーを守って活動する。 上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。
学習内容	下記の 2．指導計画参照。 【保健】現代社会と健康、安全な社会生活 ※先攻履修（保健シラバス参照） 【体育理論】スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3	体育	集団行動			■	■	■	1学期中間考査			■	■		■									2学期中間考査					2学期期末考査										学年末考査		
		体つくり運動			■	■	■																						■			■								
		新体カテスト			■	■	■																																
		陸上								■	■	■																	■			■	■	■						
		ダンス								■	■	■	■	■																									
		球技																	■	■	■	■			■	■	■								■			■	
		保健	傷害の防止										■																										
		体育理論	文化としてのスポーツ																								■												

教科	科目	単位数	対象学年
保健体育	保健	1	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解し、生涯において健康を管理し、実践していくための発展的学習内容を身につける。
目標を達成するための留意点	・各単元の健康課題についての理解を深める。 ・生涯を通じての健康に対してまた社会生活と健康との関わりについての理解を深める。
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
使用副教材	現代高等保健体育　ノート（大修館）
評価基準	【知識及び技能】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 【思考力，判断力，表現力等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 【学びに向かう力，人間性等】 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、 意欲的 に学習に取り組もうとする。 上記の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、各期末考査による理解度、学習到達度の評価、課題の提出状況などから総合的に判断します。
学習内容	1.　現代社会と健康（健康の考え方と成り立ち　～　健康に関する環境づくり） 2.　安全な社会生活（事故の発生要因　～　心配蘇生法）

2. 指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3	保健	現代社会と健康 安全な社会生活	1-1　健康の考え方と成り立ち		■																																		
			1-2　私たちの健康のすがた			■																																	
			1-3　生活習慣病の予防と回復				■																																
			1-4　がんの原因と予防					■																															
			1-5　がんの治療と回復							■																													
			1-6　運動と健康								■																												
			1-7　食事と健康									■																											
			1-8　休養・睡眠と健康											■																									
			1-9　喫煙と健康																■																				
			1-10　飲酒と健康				1						1							■			2					2											
			1-11　薬物乱用と健康				学						学								■		学					学									学		
			1-12　精神疾患の特徴				期						期									■	期					期									年		
			1-13　精神疾患の予防				中						期										中	■				期									末		
			1-14　精神疾患からの回復				間						末										間		■			末									考		
			1-15　現代の感染症				考						考										考			■		考									査		
			1-16　感染症の予防				査						査										査			■		査											
			1-17　性感染症・エイズとその予防																							■													
			1-18　健康に関する意思決定・行動選択																																			■	
			1-19　健康に関する環境づくり																																			■	
			2-1　事故の発生要因																										■										
			2-2　安全な社会の形成																													■							
			2-3　交通における安全																														■						
			2-4　応急手当の意義とその基本																															■					
			2-5　日常的な応急手当																																■				
			2-6　心肺蘇生法																																	■			

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	技術分野	０．５	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	● 生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を修得することで、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、勤労や家庭生活の尊さや意義についての理解を深める。 ● 進んで生活を工夫し想像しようとする態度を身に付け、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよくしようとする意識を持つ。 ● 仲間の発想や意見を取り入れ、物や技術の価値を自ら判断し、社会の変化に対応したり、主体的に身の回りの技術を活用したり、新たな技術を創造したりする力を身に付ける。
目標を達成するための留意点	● 実践的・体験的な学習活動を中心に、課題解決のための工夫する姿勢や技能を身に付けます。授業で得た知識や技能を、自分の生活に繋げられるように意識して授業に臨んでください。 ● 課題解決のための工夫の方法はたくさんあります。仲間と協働して学習し、アイデアを拡げていきましょう。
使用教科書	「新技術・家庭 技術分野」（教育図書）
使用副教材	プリント教材　他
評価基準	● 毎回の授業に意欲的に参加し、それぞれが課題を持ち解決しようとすること。 ● 授業内容や実習内容について理解し、定期考査等で表現できること。 ● 製作する作品や、提出物を自分なりの工夫を加えて完成させ提出できること。
学習内容	エネルギー変換に関する技術（B） ・ エネルギーを取り出す技術 ・ 電気エネルギーの利用 ・ 電気の安全な利用 ・ 電気回路のはたらき ・ 電気回路の実験 ・ 電気回路の製作実習 ・ 機械のしくみ ・ エネルギーの問題を解決する技術

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年	技術	B エネルギー変換に関する技術	エネルギーを取り出す技術		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			電気エネルギーの利用				■		■																														
			電気の安全な利用							■	■																												
			電気回路のはたらき									■		■																									
			電気回路の実験																■	■																			
			電気回路の製作実習																		■	■			■	■	■												
			機械のしくみ																									■			■	■	■						
			エネルギー問題を解決する技術																															■	■		■		

教科	科目	授業時数	対象学年
技術・家庭	家庭分野	０．５	３年

１．学習の到達目標等

到達目標	自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任、環境に与える影響について考え理解し、消費生活について工夫し、実践できる力をつける。	
目標を達成するための留意点	「Ｂ食生活と自立」においては、主に住居に関心をもち、問題点があればそれを改善する工夫を考えたり，自分や家族の住生活をさらに豊かにするための工夫を考えたりするなど，課題をもって調査や改善などを行い，住生活をよりよくしようとする意欲を持つ。 「Ｃ消費生活・環境」においては、社会において主体的に生きる消費者としての教育を充実する視点から、消費者としての自覚や環境に配慮した生活の工夫などにかかわる学習について、中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を重視する。	
使用教科書	「技術・家庭（家庭分野）」（開隆堂）	
使用副教材	プリント教材　他	
評価基準	「Ｂ食生活と自立」(6)（7）においては、住居と社会生活とのかかわりや計画的な活用の必要性を理解し、目的に応じ個性を生かす生活の工夫、適切な選択ができること。 「Ｃ消費生活・環境」においては，家庭生活と消費、環境に与える影響について関心をもって、その課題解決を目指した工夫、基礎的・基本的な知識・技術を身につけること。	
学習内容	Ｂ　衣食住の生活 【住生活分野】 （1）住まいのはたらきとここちよさ （2）安全な住まいで安心な暮らし （3）持続可能な住生活	Ｃ　消費生活・環境 （1）家庭生活と消費 （2）購入・支払いと生活情報 （3）消費者被害と消費者の自立 （4）持続可能な社会

２．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年生	家庭	C 消費生活 ・環境	（1） 金銭の管理と購入		■			1学期中間考査					1学期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
			購入方法や支払い方法の特徴			■	■																																
			計画的な金銭管理						■	■																													
			売買契約の仕組み								■	■																											
			消費者被害											■																									
			物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理																■	■																			
			情報を活用した物資・サービスの購入の工夫																		■	■																	
			（2） 消費者の権利と責任																					■	■														
			消費者の基本的な権利と責任																							■	■												
			消費生活が環境や社会に及ぼす影響																										■			■							
			自立した消費者としての消費行動の工夫																														■	■					
			（3） 消費生活・環境についての課題と実践																															■	■		■		

教科	科目	単位数	対象学年
英語	英語（コミュニケーションⅠ）	5 （2）	3年

1．学習の到達目標等

到達目標	グローバル社会・情報化時代を主体的に生きていくため、コミュニケーションツールとしての英語を習得し、使える力を育成することを目指す。 英語の基礎力を身につけることはもちろんのこと、英語で自分の想いを相手に伝えることができるような表現力をも身につけることを目標とする。
目標を達成するための留意点	英語は継続して取り組むことで成果へとつながるので、課題も含め毎日英語に触れるよう指導計画を作成する。 授業の復習を確実に行う習慣を身につけ、習ったことは逃さず理解するよう心がける。特に習った単語や熟語は確実に習得するよう繰り返し音読や意味の確認を行うよう指導する。
使用教科書	NEW CROWN English Series 3（三省堂)、ELEMENT English Communication　Ⅰ(啓林館)
使用副教材	＊ELEMENT Ⅰワークブック Standard　　＊システム単語帳（駿台文庫) ＊FACTBOOK 総合英語(桐原)　　＊Listening Essentials 1 (啓隆社) ＊FACTBOOK English Logic and Expression I Workbook [Essential] (桐原) ＊超入門英文解釈の技術６０（桐原書店)
評価基準	①授業中に生徒の言語活動の取り組み状況を観察する。(思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度) ②言語活動への取り組みを評価する。(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度) ③テーマに関連した活動に使える表現について理解しているかを筆記テストする。(知識・技能）小テスト／中間・期末考査／評価問題など ④上記課題の内容や提出状況（知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)
学習内容	現在完了形・不定詞の用法・分詞・関係代名詞などの基礎的な文法事項を理解し、それらを使って自己表現してみる。 身近なテーマについての英文を書き、グループやクラスの前でプレゼンをすることで発信力を鍛えていく。 異文化交流や環境保護，世界平和等をテーマにした英文を扱い，文型を意識して１文ずつ正しく読み解く精読力を養いながら，接続表現等を意識して話の大まかな流れをつかむ読解力を鍛えていく。

2．指導計画

				4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
学年	科目	単元	項目	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3年	英語③	Lesson 6	Imagine to Act		■	■		1学期中間考査					1学期期末考査										2学期中間考査					2学期期末考査									学年末考査		
		Lesson 7	For Our Future				■		■																														
		Reading for Fun~Further Reading								■	■	■																											
	英語コミュニケーションⅠ	Tips for Learning English												■																									
		Lesson 1	Intercultural Relationships																■	■	■																		
		Lesson 2	Love Beyond Species																			■			■														
		Lesson 3	Contributing to Our Planet																							■	■		■										
		Lesson 4	Messages for World Peace																												■	■	■						
		Further Reading																																■	■		■		